

科目名	経営情報研究演習 I			担当教員：アリ, ファテヘルアリム F. メールアドレス：ali@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1207	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences I				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	4	研 313	火曜 10:40~12:10

1. 授業の概要

情報システム構築と活用 (Web アプリケーション, 計算知能, ネットワーク等) に関する研究を行う。

2. 到達目標

明確な研究方法に沿って、研究目的を達成その研究成果は学会等に発表すること。

3. 授業の計画と内容

前学期

第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	研究構想検討
第 3 週	関連論文・文献レビュー
第 4 週	関連論文・文献レビュー
第 5 週	関連論文・文献レビュー
第 6 週	研究課題関連発表
第 7 週	研究方法
第 8 週	研究枠組みの検討
第 9 週	研究枠組みの検討
第 10 週	研究調査と基本データ収集
第 11 週	研究調査と基本データ収集
第 12 週	研究調査と基本データ収集
第 13 週	研究調査と基本データ収集
第 14 週	研究課題と計画
第 15 週	研究総合計画

後学期

第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	研究中間報告
第 3 週	研究今後の日程
第 4 週	研究課題報告
第 5 週	研究課題報告
第 6 週	研究中間報告
第 7 週	研究中間報告
第 8 週	研究中間報告
第 9 週	研究中間報告
第 10 週	研究中間報告
第 11 週	研究中間成果発表
第 12 週	研究課題・成果報告
第 13 週	研究課題・成果報告
第 14 週	研究課題・成果報告
第 15 週	研究まとめと報告

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

各自の研究テーマに合わせて決める。

【参考文献】

各自の研究テーマに合わせて決める。

5. 準備学習

自主的に研究を行なうこと。

M1 の研究成果が M2 において修士論文へと結実できる内容である。

6. 成績評価の方法

研究取り組み (10点), 研究内容 (40点), 研究成果 (50点) によって評価する。

7. 履修の条件

特になし。英文講読の経験があることが望ましい。

8. その他

学会発表も目指すこと。

科目名	経営情報研究演習 I			担当教員:宮平 栄治																																																	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences I			メールアドレス:s.miyahira@meio-u.ac.jp 研究室電話番号:0980-51-1201(2706)																																																	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー																																																
4	1	通年	2~3	研315	火・木 14:45~16:15																																																
<p>1. 授業の概要</p> <p>経営情報研究演習 I では、修士号学位請求論文に必要なテーマ選定、研究方法、参考文献収集の仕方、批判的読解および発表の方法を学ぶ。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>修士号学位論文は、対象となる学問領域の全体像を理解する。要素還元論に基づいて可能な限り原著論文を批判的読解後、同じテーマで論を展開、比較・検討することで先達の到達点、改善点等を学ぶことになるので、本講義において叙述の2点を到達目標とする。</p> <p>3. 授業計画と内容</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th colspan="2">前期</th> <th>後期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1週</td> <td>科学的思考(ポパーとトーマス・S・クーン)、社会科学と自然科学の相違点</td> <td>第1週 関連論文文献研究報告①</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>既存理論研究の意義について関連論文文献研究と発表②</td> <td>第2週 関連論文文献研究報告②</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>オリジナルな論文—現象の発見・概念化・理論化・計測方法の確立・分析方法の確立</td> <td>第3週 関連論文文献研究報告③</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>純粋理論研究・分野別研究・概念別研究・応用研究</td> <td>第4週 関連論文文献研究報告③</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>静学分析・比較静学分析・動学分析</td> <td>第5週 関連論文文献研究報告④</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>原因と相関関係、尺度と量質概念</td> <td>第6週 関連論文文献研究報告⑤</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>問題とは</td> <td>第7週 中間報告①</td> </tr> <tr> <td>第8週</td> <td>問題発見と解決</td> <td>第8週 関連論文文献研究報告⑥</td> </tr> <tr> <td>第9週</td> <td>クリティカルリーディングと引用上の諸注意</td> <td>第9週 関連論文文献研究報告⑦</td> </tr> <tr> <td>第10週</td> <td>修士論文テーマ設定と手順(関連論文収集と精読優先順位決定)</td> <td>第10週 関連論文文献研究報告⑧</td> </tr> <tr> <td>第11週</td> <td>関連論文文献研究と発表①</td> <td>第11週 関連論文文献研究報告⑨</td> </tr> <tr> <td>第12週</td> <td>関連論文文献研究と発表②</td> <td>第12週 関連論文文献研究報告⑩</td> </tr> <tr> <td>第14週</td> <td>関連論文文献研究と発表③</td> <td>第13週 関連論文文献研究報告⑪</td> </tr> <tr> <td>第14週</td> <td>関連論文文献研究と発表④</td> <td>第14週 関連論文文献研究報告⑫</td> </tr> <tr> <td>第15週</td> <td>関連論文文献研究と発表⑤</td> <td>第15週 中間報告②</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>【テキスト】 各自の研究テーマに沿った文献を指示する。</p> <p>【参考文献】 各自の研究テーマにあった文献を指示する。</p> <p>5. 準備学習</p> <p>演習時間までに原著論文の内容をまとめ、レジュメにまとめる。</p> <p>6. 成績評価の方法</p> <p>①報告レジュメ ②報告内容</p> <p>7. 履修条件</p> <p>口頭発表の際は、レジュメを用意する。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>						前期		後期	第1週	科学的思考(ポパーとトーマス・S・クーン)、社会科学と自然科学の相違点	第1週 関連論文文献研究報告①	第2週	既存理論研究の意義について関連論文文献研究と発表②	第2週 関連論文文献研究報告②	第3週	オリジナルな論文—現象の発見・概念化・理論化・計測方法の確立・分析方法の確立	第3週 関連論文文献研究報告③	第4週	純粋理論研究・分野別研究・概念別研究・応用研究	第4週 関連論文文献研究報告③	第5週	静学分析・比較静学分析・動学分析	第5週 関連論文文献研究報告④	第6週	原因と相関関係、尺度と量質概念	第6週 関連論文文献研究報告⑤	第7週	問題とは	第7週 中間報告①	第8週	問題発見と解決	第8週 関連論文文献研究報告⑥	第9週	クリティカルリーディングと引用上の諸注意	第9週 関連論文文献研究報告⑦	第10週	修士論文テーマ設定と手順(関連論文収集と精読優先順位決定)	第10週 関連論文文献研究報告⑧	第11週	関連論文文献研究と発表①	第11週 関連論文文献研究報告⑨	第12週	関連論文文献研究と発表②	第12週 関連論文文献研究報告⑩	第14週	関連論文文献研究と発表③	第13週 関連論文文献研究報告⑪	第14週	関連論文文献研究と発表④	第14週 関連論文文献研究報告⑫	第15週	関連論文文献研究と発表⑤	第15週 中間報告②
前期		後期																																																			
第1週	科学的思考(ポパーとトーマス・S・クーン)、社会科学と自然科学の相違点	第1週 関連論文文献研究報告①																																																			
第2週	既存理論研究の意義について関連論文文献研究と発表②	第2週 関連論文文献研究報告②																																																			
第3週	オリジナルな論文—現象の発見・概念化・理論化・計測方法の確立・分析方法の確立	第3週 関連論文文献研究報告③																																																			
第4週	純粋理論研究・分野別研究・概念別研究・応用研究	第4週 関連論文文献研究報告③																																																			
第5週	静学分析・比較静学分析・動学分析	第5週 関連論文文献研究報告④																																																			
第6週	原因と相関関係、尺度と量質概念	第6週 関連論文文献研究報告⑤																																																			
第7週	問題とは	第7週 中間報告①																																																			
第8週	問題発見と解決	第8週 関連論文文献研究報告⑥																																																			
第9週	クリティカルリーディングと引用上の諸注意	第9週 関連論文文献研究報告⑦																																																			
第10週	修士論文テーマ設定と手順(関連論文収集と精読優先順位決定)	第10週 関連論文文献研究報告⑧																																																			
第11週	関連論文文献研究と発表①	第11週 関連論文文献研究報告⑨																																																			
第12週	関連論文文献研究と発表②	第12週 関連論文文献研究報告⑩																																																			
第14週	関連論文文献研究と発表③	第13週 関連論文文献研究報告⑪																																																			
第14週	関連論文文献研究と発表④	第14週 関連論文文献研究報告⑫																																																			
第15週	関連論文文献研究と発表⑤	第15週 中間報告②																																																			

科目名	経営情報研究演習 I			担当教員：金城 亮	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences I			メールアドレス：a.kinjo@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1203	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	2	研 314	火曜 4 限・木曜 2 限

1. 授業の概要

本演習は産業・組織心理学分野の研究活動を行う演習である。修士論文執筆に備えて関連研究等の幅広いリサーチを行い、理論的枠組みの強化をはかる。同時に、修士論文研究に使用する妥当性・信頼性の高い調査尺度や実験課題等の収集／開発を行うために、予備的なデータ収集を実施する。さらに、種々の統計分析手法に関する理解を深めることを目的とする。

2. 到達目標

修士論文執筆に向けて、妥当性・信頼性の高い調査尺度や実験課題等の収集／開発を行いつつ予備的なデータ収集を実施する。さらに SPSS 等の統計分析アプリケーションを研究目的に沿って使いこなせるようになる。

3. 授業の計画と内容

第 1 週	オリエンテーション	第 16 週	予備調査／実験データの収集①
第 2 週	研究テーマ・仮説設定	第 17 週	予備調査／実験データの収集②
第 3 週	研究テーマ・仮説設定	第 18 週	予備調査／実験データの収集③
第 4 週	課題関連研究の文献検索①	第 19 週	予備調査／実験データの収集④
第 5 週	課題関連研究の文献検索②	第 20 週	データ入力・集計①
第 6 週	課題関連研究の文献講読①	第 21 週	データ入力・集計②
第 7 週	課題関連研究の文献講読②	第 22 週	統計分析①
第 8 週	統計分析の基礎知識	第 23 週	統計分析②
第 9 週	統計分析ソフト：SPSS の使用法①	第 24 週	図表作成①
第 10 週	統計分析ソフト：SPSS の使用法②	第 25 週	図表作成②
第 11 週	尺度／実験課題の検討①	第 26 週	結果の解釈・考察①
第 12 週	尺度／実験課題の検討②	第 27 週	結果の解釈・考察②
第 13 週	研究計画の策定①	第 28 週	研究レポート作成①
第 14 週	研究計画の策定②	第 29 週	研究レポート作成②
第 15 週	研究計画の策定③	第 30 週	研究成果報告

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

研究テーマに応じて適宜指定

【参考文献】

研究領域に応じて適宜指定

5. 準備学習

自身の研究テーマに沿った先行研究の収集、講読を十分に行うこと。

6. 成績評価の方法

①ゼミ研究活動状況：	30点
②研究報告書等提出物：	70点
計	100点

7. 履修の条件：

- ・学群／学部における心理学関連科目の単位を履修済みであることが望ましい。
- ・学群／学部において心理学分野の卒業研究論文を執筆済みであることが望ましい。

8. その他

演習生には、受動的な研究姿勢に留まることなく、自らの問題意識、研究テーマの解明に向けて主体的・積極的に取り組んでいただきたい。

科目名	経営情報研究演習 I			担当教員：中里 収	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences I			メールアドレス：s.nakazato@mail.meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	2	研 312	火曜・木曜 3限 (13:00～14:30)

1. 授業の概要

本演習では、音声対話・表情・ジェスチャーといったコミュニケーションに関する現象を扱う。
前半は主に文献研究、発表練習などを行う。
後半はシステム設計、プログラミング技法、システム評価などについて演習する。

2. 到達目標

コミュニケーションシステムの開発を題材にして、実験計画、データ分析、プログラミング技法およびプレゼンテーション方法を習得する。

3. 授業の計画と内容

前学期

第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	文献検索方法
第 3 週	〃
第 4 週	文献研究・論文講読
第 5 週	〃
第 6 週	〃
第 7 週	〃
第 8 週	〃
第 9 週	レポート作成法
第 10 週	〃
第 11 週	プレゼンテーション練習
第 12 週	〃
第 13 週	〃
第 14 週	〃
第 15 週	〃

後学期

第 1 週	回研究計画
第 2 週	システム設計法
第 3 週	〃
第 4 週	プログラミング方法
第 5 週	〃
第 6 週	〃
第 7 週	〃
第 8 週	〃
第 9 週	システム評価方法
第 10 週	〃
第 11 週	評価実験
第 12 週	〃
第 13 週	データ処理法
第 14 週	〃
第 15 週	〃

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

講義の中で資料を配布する。

【参考文献】

堂下 修司 他 「音声による人間と機械の対話」 オーム社 (4500 円)
田窪行則 他 「言語の科学 2 音声」 岩波書店 (3800 円)

5. 準備学習

自分の修士論文研究の進捗状況を説明できるようにしておくこと。

6. 成績評価の方法

レポート課題 (50 点) 発表内容 (50 点) で評価する。

7. 履修の条件

プログラミングの経験があることが望ましい。

8. その他

特になし。

科目名	経営情報研究演習 I			担当教員：木村 堅一																																																	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences I			メールアドレス：k.kimura@meio-u.ac.jp																																																	
	研究室電話番号：0980-51-1205																																																				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー																																																
4	1	通年	2	研 310	月曜日 3 時限目 火曜日 3 時限目																																																
<p>1. 授業の概要</p> <p>本演習は、社会心理学における対人心理学研究・対人コミュニケーション研究に焦点を当て、それらの先行研究の読解・分析、仮説の発展、研究目的と手法の選択、行動の数量化、仮説検討といった一連の研究プロセスを理解した上で、各自で研究計画を決定、実行を指導する。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>社会心理学的な研究を行う上で必要な方法論に関する基本的な知識と技能を理解できる。 自らの修士論文における研究計画の立案において、得られた知識を活用できる。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">前期</th> <th style="text-align: center;">後期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 週</td> <td>各自の研究実績の紹介</td> <td>予備実験あるいは予備調査 (1)</td> </tr> <tr> <td>第 2 週</td> <td>文献収集・先行研究の紹介 (1)</td> <td>〃 (2)</td> </tr> <tr> <td>第 3 週</td> <td>〃 (2)</td> <td>〃 (3)</td> </tr> <tr> <td>第 4 週</td> <td>〃 (3)</td> <td>発表会リハーサル</td> </tr> <tr> <td>第 5 週</td> <td>〃 (4)</td> <td>研究計画発表会</td> </tr> <tr> <td>第 6 週</td> <td>〃 (5)</td> <td>データ収集 (1)</td> </tr> <tr> <td>第 7 週</td> <td>問題設定 (1)</td> <td>〃 (2)</td> </tr> <tr> <td>第 8 週</td> <td>〃 (2)</td> <td>〃 (3)</td> </tr> <tr> <td>第 9 週</td> <td>〃 (3)</td> <td>〃 (4)</td> </tr> <tr> <td>第 10 週</td> <td>〃 (4)</td> <td>〃 (5)</td> </tr> <tr> <td>第 11 週</td> <td>〃 (5)</td> <td>論文添削 (1)</td> </tr> <tr> <td>第 12 週</td> <td>研究計画 (1)</td> <td>〃 (2)</td> </tr> <tr> <td>第 13 週</td> <td>〃 (2)</td> <td>〃 (3)</td> </tr> <tr> <td>第 14 週</td> <td>〃 (3)</td> <td>〃 (4)</td> </tr> <tr> <td>第 15 週</td> <td>〃 (4)</td> <td>〃 (5)</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>適宜、紹介する。</p> <p>5. 準備学習</p> <p>日頃から、自らの興味・関心あるテーマについて問題意識を深めておくこと。 先行文献の収集・整理を行い、先行研究の成果や問題点をレビューしておくこと。 研究計画を具体化すること。 予備調査・予備実験のデータを分析しておくこと。</p> <p>6. 成績評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文本体 (50 点) ・発表会 (50 点) ・合計 (100 点) <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>							前期	後期	第 1 週	各自の研究実績の紹介	予備実験あるいは予備調査 (1)	第 2 週	文献収集・先行研究の紹介 (1)	〃 (2)	第 3 週	〃 (2)	〃 (3)	第 4 週	〃 (3)	発表会リハーサル	第 5 週	〃 (4)	研究計画発表会	第 6 週	〃 (5)	データ収集 (1)	第 7 週	問題設定 (1)	〃 (2)	第 8 週	〃 (2)	〃 (3)	第 9 週	〃 (3)	〃 (4)	第 10 週	〃 (4)	〃 (5)	第 11 週	〃 (5)	論文添削 (1)	第 12 週	研究計画 (1)	〃 (2)	第 13 週	〃 (2)	〃 (3)	第 14 週	〃 (3)	〃 (4)	第 15 週	〃 (4)	〃 (5)
	前期	後期																																																			
第 1 週	各自の研究実績の紹介	予備実験あるいは予備調査 (1)																																																			
第 2 週	文献収集・先行研究の紹介 (1)	〃 (2)																																																			
第 3 週	〃 (2)	〃 (3)																																																			
第 4 週	〃 (3)	発表会リハーサル																																																			
第 5 週	〃 (4)	研究計画発表会																																																			
第 6 週	〃 (5)	データ収集 (1)																																																			
第 7 週	問題設定 (1)	〃 (2)																																																			
第 8 週	〃 (2)	〃 (3)																																																			
第 9 週	〃 (3)	〃 (4)																																																			
第 10 週	〃 (4)	〃 (5)																																																			
第 11 週	〃 (5)	論文添削 (1)																																																			
第 12 週	研究計画 (1)	〃 (2)																																																			
第 13 週	〃 (2)	〃 (3)																																																			
第 14 週	〃 (3)	〃 (4)																																																			
第 15 週	〃 (4)	〃 (5)																																																			

科目名	経営情報研究演習 I			担当教員：田邊 勝義	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences I			メールアドレス：k.tanabe@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1202	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	1	通年	2	研 307	月 3 限、木 3 限

1. 授業の概要

本演習は、情報処理分野における情報検索、画像処理、医療情報処理の研究活動に焦点を当て、先行研究の文献講読、課題抽出、テーマ選定、研究目的、研究方法の検討を行い、計画を策定し、研究活動を行う。

2. 到達目標

- ・研究分野に関する文献、研究テーマに関する内容を理解し、当該研究分野の現状を把握すると共に説明できること。
- ・研究テーマに関する研究活動を実施するための環境を整え、論理的な研究計画を立てられるようになること。

3. 授業の計画と内容

前期

- 第 1 週 オリエンテーション
- 第 2 週 これまでの研究活動状況の紹介
- 第 3 週 研究テーマ候補の選定指導
- 第 4 週 研究テーマ候補の選定指導
- 第 5 週 研究テーマ関連分野の文献収集・文献講読 (1)
- 第 6 週 研究テーマ関連分野の文献収集・文献講読 (2)
- 第 7 週 研究テーマ関連分野の文献講読・文献紹介 (1)
- 第 8 週 研究テーマ関連分野の文献講読・文献紹介 (2)
- 第 9 週 研究課題設定指導 (1)
- 第 10 週 研究課題設定指導 (2)
- 第 11 週 研究課題設定指導 (3)
- 第 12 週 研究課題設定指導 (4)
- 第 13 週 研究テーマ選定・計画策定指導 (1)
- 第 14 週 研究テーマ選定・計画策定指導 (2)
- 第 15 週 研究計画発表会

後期

- 第 1 週 オリエンテーション
- 第 2 週 研究計画に基づき PC 環境、実験環境整備
- 第 3 週 実験プログラム作成・データ収集指導 (1)
- 第 4 週 実験プログラム作成・データ収集指導 (2)
- 第 5 週 実験プログラム作成・データ収集指導 (3)
- 第 6 週 実験プログラム作成・データ収集指導 (4)
- 第 7 週 実験プログラム作成・データ収集指導 (5)
- 第 8 週 研究進捗状況中間報告会
- 第 9 週 再研究計画策定指導 (1)
- 第 10 週 再研究計画策定指導 (2)
- 第 11 週 再実験プログラム作成・データ収集指導 (1)
- 第 12 週 再実験プログラム作成・データ収集指導 (2)
- 第 13 週 再実験プログラム作成・データ収集指導 (3)
- 第 14 週 再実験プログラム作成・データ収集指導 (4)
- 第 15 週 研究成果発表会

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

各自の研究テーマに合わせて指定する。

【参考文献】

各自の研究テーマに合わせて指定する。

5. 準備学習

興味関心のある研究テーマについて先行研究の文献調査をし、文献収集・講読を十分行っておくこと。
研究計画の青写真を予め描いておくこと。

6. 成績評価の方法

- ①ゼミの研究活動状況：30 点
- ②報告書：40 点
- ③発表会：30 点

7. 履修の条件

指導教員とのディスカッション、口頭発表の際にはレジメを用意し説明すること。

8. その他

特になし。

科目名	経営情報研究演習 I			担当教員：仲尾次 洋子																																																																	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information sciences I			メールアドレス：y.nakaoji@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1093																																																																	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー																																																																
4	1	通年	若干人	研 302	火 2 限 ・ 木 1 限																																																																
<p>1. 講義内容 本演習では、会計分野（財務会計や国際会計）における文献研究を行うとともに、修士論文の作成方法を修得する。</p> <p>2. 到達目標 修士論文のテーマに関する先行研究サーベイや論点管理がしっかりできていること。</p> <p>3. 講義予定</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">前学期</th> <th></th> <th style="text-align: center;">後学期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第 1 週</td> <td>オリエンテーション</td> <td>第 1 週</td> <td>研究進捗確認</td> </tr> <tr> <td>第 2 週</td> <td>卒業研究の紹介</td> <td>第 2 週</td> <td>論文作成</td> </tr> <tr> <td>第 3 週</td> <td>文献収集</td> <td>第 3 週</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>第 4 週</td> <td>先行研究サーベイ</td> <td>第 4 週</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>第 5 週</td> <td>〃</td> <td>第 5 週</td> <td>研究計画発表会</td> </tr> <tr> <td>第 6 週</td> <td>〃</td> <td>第 6 週</td> <td>論文作成</td> </tr> <tr> <td>第 7 週</td> <td>〃</td> <td>第 7 週</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>第 8 週</td> <td>〃</td> <td>第 8 週</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>第 9 週</td> <td>論点整理</td> <td>第 9 週</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>第 10 週</td> <td>〃</td> <td>第 10 週</td> <td>論文添削指導</td> </tr> <tr> <td>第 11 週</td> <td>問題設定</td> <td>第 11 週</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>第 12 週</td> <td>研究計画</td> <td>第 12 週</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>第 13 週</td> <td>論文作成</td> <td>第 13 週</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>第 14 週</td> <td>〃</td> <td>第 14 週</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>第 15 週</td> <td>前学期総括</td> <td>第 15 週</td> <td>後学期総括</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. テキスト・参考文献 適宜指示する。</p> <p>5. 準備学習 適宜課題を課す。</p> <p>6. 成績評価方法 活動状況 40 点 研究成果 60 点 計 100 点</p> <p>7. 履修の条件 簿記の基本的なスキルを有すること。</p> <p>8. その他 特になし。</p>							前学期		後学期	第 1 週	オリエンテーション	第 1 週	研究進捗確認	第 2 週	卒業研究の紹介	第 2 週	論文作成	第 3 週	文献収集	第 3 週	〃	第 4 週	先行研究サーベイ	第 4 週	〃	第 5 週	〃	第 5 週	研究計画発表会	第 6 週	〃	第 6 週	論文作成	第 7 週	〃	第 7 週	〃	第 8 週	〃	第 8 週	〃	第 9 週	論点整理	第 9 週	〃	第 10 週	〃	第 10 週	論文添削指導	第 11 週	問題設定	第 11 週	〃	第 12 週	研究計画	第 12 週	〃	第 13 週	論文作成	第 13 週	〃	第 14 週	〃	第 14 週	〃	第 15 週	前学期総括	第 15 週	後学期総括
	前学期		後学期																																																																		
第 1 週	オリエンテーション	第 1 週	研究進捗確認																																																																		
第 2 週	卒業研究の紹介	第 2 週	論文作成																																																																		
第 3 週	文献収集	第 3 週	〃																																																																		
第 4 週	先行研究サーベイ	第 4 週	〃																																																																		
第 5 週	〃	第 5 週	研究計画発表会																																																																		
第 6 週	〃	第 6 週	論文作成																																																																		
第 7 週	〃	第 7 週	〃																																																																		
第 8 週	〃	第 8 週	〃																																																																		
第 9 週	論点整理	第 9 週	〃																																																																		
第 10 週	〃	第 10 週	論文添削指導																																																																		
第 11 週	問題設定	第 11 週	〃																																																																		
第 12 週	研究計画	第 12 週	〃																																																																		
第 13 週	論文作成	第 13 週	〃																																																																		
第 14 週	〃	第 14 週	〃																																																																		
第 15 週	前学期総括	第 15 週	後学期総括																																																																		

科目名	経営情報研究演習Ⅱ			担当教員：アリ，ファテヘルアリム F. メールアドレス：ali@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1207	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences II				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	4	研 313	火 10:40～12:10

1. 授業の概要

修士論文作成に向けた研究とその成果を発表し，修士論文を完成させる。

2. 到達目標

明確な研究方法に沿って、研究目的を達成その研究成果は学会等に発表すること

3. 授業の計画と内容

前学期

第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	研究実験とその成果の報告
第 3 週	研究実験とその成果の報告
第 4 週	研究実験とその成果の報告
第 5 週	研究実験とその成果の報告
第 6 週	研究実験とその成果の報告
第 7 週	研究実験とその成果の報告
第 8 週	研究実験とその成果の報告
第 9 週	研究実験とその成果の報告
第 10 週	研究実験とその成果の報告
第 11 週	研究実験とその成果の報告
第 12 週	研究実験とその成果の報告
第 13 週	研究実験とその成果の報告
第 14 週	研究実験とその成果の報告
第 15 週	研究実験とその成果の報告

後学期

第 1 週	中間報告
第 2 週	中間報告
第 3 週	論文作成
第 4 週	論文作成
第 5 週	論文作成
第 6 週	論文作成
第 7 週	論文作成
第 8 週	論文作成
第 9 週	論文作成
第 10 週	論文作成
第 11 回	研究成果発表
第 12 週	研究成果発表
第 13 週	研究成果発表
第 14 週	研究成果発表
第 15 週	研究成果発表

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

各自の研究テーマに合わせて決める。

【参考文献】

各自の研究テーマに合わせて決める。

5. 準備学習

自主的に研究を行なうこと。

M1 の研究成果が M2 において修士論文へと結実できる内容である。

6. 成績評価の方法

研究取り組み（10点），研究内容（40点），研究成果（50点）によって評価する。

7. 履修の条件

特になし。英文講読の経験があることが望ましい。

8. その他

学会発表も目指すこと。

科目名	経営情報研究演習Ⅱ			担当教員：宮平 栄治	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences II			メールアドレス：s.miyahira@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	2～3	研 315	火・木 14：45～16：15
研究室電話番号：0980-51-1201					

1. 授業の概要

研究演習Ⅱでは研究演習Ⅰで学んだ理論的枠組みから修士論文テーマに関する論文を作成する。修士論文の作成に当たって常に理論的枠組みのどの部分を体系立てているのかという全体と部分を意識し、また、現実との比較を通して、理論の限界を認識するとともに、理論化できない諸現象へのアプローチ方法も学ぶ。

2. 到達目標

修士号学位請求に資する論文を作成する。そのためには、修士論文のテーマに即した原著論文を批判的に読解し、まとめ、課題等を発見する。

3. 授業の計画と内容

前 期	後 期
第 1 回 関連論文文献研究と発表①	第 1 回 修士論文第 1 章報告①
第 2 回 関連論文文献研究と発表②	第 2 回 修士論文第 1 章報告②
第 3 回 関連論文文献研究と発表③	第 3 回 修士論文第 2 章報告①
第 4 回 関連論文文献研究と発表④	第 4 回 修士論文第 2 章報告②
第 5 回 関連論文文献研究と発表⑤	第 5 回 修士論文第 3 章報告①
第 6 回 テーマ選定と中間発表	第 6 回 修士論文第 3 章報告②
第 7 回 関連論文文献研究と発表⑥	第 7 回 修士論文第 4 章報告①
第 8 回 関連論文文献研究と発表⑦	第 8 回 修士論文第 4 章報告②
第 9 回 関連論文文献研究と発表⑧	第 9 回 中間報告
第 10 回 関連論文文献研究と発表⑨	第 10 回 修士論文結論報告①
第 11 回 関連論文文献研究と発表⑩	第 11 回 修士論文結論報告②
第 12 回 修士論文章立て	第 12 回 修士論文の全体構成確認①
第 13 回 修士論文章立てとクロッキー	第 13 回 修士論文の全体構成確認②
第 14 回 修士論文章立てと具体例	第 14 回 修士論文の校正
第 15 回 修士論文の構成	第 15 回 修士論文結論報告①

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

各自の修士論文のテーマに即した文献を指示する。

【参考文献】

修士論文のテーマに関した優れた先行研究を指示する。

5. 準備学習

演習時間までに原著論文の内容をまとめ、レジюмеにまとめる。

6. 評価方法

- ①報告レジюме
- ②報告内容

7. 履修条件

口頭発表の際は、レジюмеを用意する。

8. その他

特になし。

科目名	経営情報研究演習Ⅱ			担当教員：金城 亮	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences Ⅱ			メールアドレス：a.kinjo@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1203	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	2	研 314	火曜 4 限・木曜 2 限

1. 授業の概要

本演習は産業・組織心理学分野の研究活動を行う演習である。当分野の研究演習Ⅰを履修済みであることを前提としている。本演習では研究演習Ⅰにおいて設定したテーマと予備分析に基づき、実証科学的アプローチによってデータを収集・分析し、修士論文にまとめることを課題とする。また、研究成果について少なくとも3回の報告発表（テーマ発表・中間発表・最終発表）を義務づける。

2. 到達目標

産業・組織心理学分野に独自の研究知見を提供しうる修士論文を執筆する。

3. 授業の計画と内容

第 1 週	研究計画①：研究テーマ	第 1 6 週	結果の解釈・考察①
第 2 週	研究計画②：研究の背景と目的	第 1 7 週	結果の解釈・考察②
第 3 週	研究計画③：仮説の設定	第 1 8 週	修士論文まとめ
第 4 週	研究計画④：研究方法（手続き）	第 1 9 週	修士論文まとめ
第 5 週	研究計画⑤：研究方法（要因計画／尺度）	第 2 0 週	修士論文まとめ
第 6 週	本実験／本調査実施	第 2 1 週	修士論文まとめ
第 7 週	本実験／本調査実施	第 2 2 週	修士論文まとめ
第 8 週	本実験／本調査実施	第 2 3 週	今後の課題検討
第 9 週	本実験／本調査実施	第 2 4 週	今後の課題検討
第 1 0 週	データ入力・集計①	第 2 5 週	卒業論文提出
第 1 1 週	データ入力・集計②	第 2 6 週	審査・報告会準備（要旨作成）
第 1 2 週	統計分析①	第 2 7 週	審査・報告会準備（プレゼン資料作成）
第 1 3 週	統計分析②	第 2 8 週	審査・報告会準備（プレゼン資料作成）
第 1 4 週	図表作成①	第 2 9 週	修士論文審査・報告会
第 1 5 週	図表作成②	第 3 0 週	総まとめ

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

研究テーマに応じて適宜指定

【参考文献】

研究領域に応じて適宜指定

5. 準備学習

自身の研究テーマに沿った先行研究の収集、講読を十分に行うこと。

6. 成績評価の方法

①ゼミ研究活動状況：	20点
②口頭発表報告：	30点
③修士論文：	50点
計	100点

7. 履修の条件

経営情報研究演習Ⅰ（産業・組織心理学領域）の単位を修得済みであること。

8. その他

演習生には、受動的な研究姿勢に留まることなく、自らの問題意識、研究テーマの解明に向けて主体的・積極的に取り組んでいただきたい。

科目名	経営情報研究演習Ⅱ			担当教員：中里 収	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences II			メールアドレス：s.nakazato@mail.meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	2	研 312	火曜・木曜 3限 (13:00～14:30)

1. 授業の概要

本演習では、音声対話・表情・ジェスチャーといった、コミュニケーションに関する現象を扱う。コミュニケーションシステムの開発を題材にして、研究方法や論文執筆の手順を習得する。前半はシステム設計、システム評価実験などの演習を行い、後半は修士論文の執筆法を演習する。

2. 到達目標

音声対話研究の基礎知識を身に付ける。
研究者に必要な技能を身に付ける。

3. 授業の計画と内容

前学期

第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	システム設計法
第 3 週	〃
第 4 週	プログラミング方法
第 5 週	〃
第 6 週	〃
第 7 週	システム評価
第 8 週	〃
第 9 週	実験計画法
第 10 週	〃
第 11 週	評価実験
第 12 週	〃
第 13 週	データ処理法
第 14 週	〃
第 15 週	〃

後学期

第 1 週	オリエンテーション・研究計画
第 2 週	論文執筆方法
第 3 週	〃
第 4 週	〃
第 5 週	〃
第 6 週	〃
第 7 週	〃
第 8 週	プレゼンテーション
第 9 週	論文執筆方法
第 10 週	〃
第 11 週	〃
第 12 週	〃
第 13 週	〃
第 14 週	プレゼンテーション
第 15 週	〃

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

講義の中で資料を配布する。

【参考文献】

堂下 修司 他	「音声による人間と機械の対話」	オーム社	(4500 円)
田窪行則 他	「言語の科学 2 音声」	岩波書店	(3800 円)

5. 準備学習

自分の修士論文研究の進捗状況を説明できるようにしておくこと。

6. 成績評価の方法

修士論文内容 (80 点) 口頭発表内容 (20 点) で評価する。

7. 履修の条件

原則として、経営情報研究演習Ⅰからの継続である。

8. その他

特になし。

科目名	経営情報研究演習Ⅱ			担当教員：木村 堅一 メールアドレス：k.kimura@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1205	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences II				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	2	研 310	月曜日 3時限目 火曜日 3時限目

1. 授業の概要

本演習は、経営情報研究演習Ⅰ（木村担当）に引き続き、社会心理学における対人心理学研究・対人コミュニケーション研究に焦点を当て、それらの先行研究の読解・分析、仮説の発展、研究目的と手法の選択、行動の数量化、仮説検討といった一連の研究プロセスを理解した上で、各自で研究計画を決定、実行を指導する。

2. 到達目標

社会心理学的な研究を行う上で必要な方法論に関する基本的な知識と技能を理解できる。
自らの修士論文における研究計画の実行・文章化において、得られた知識を活用できる。

3. 授業の計画と内容

	前期	後期
第1週	各自の研究実績の紹介	修士論文の概要作成（1）
第2週	関連する先行研究の紹介（1）	〃（2）
第3週	〃（2）	〃（3）
第4週	〃（3）	報告会リハーサル（1）
第5週	〃（4）	〃（2）
第6週	〃（5）	論文コメントと修正（1）
第7週	問題の再構成（1）	〃（2）
第8週	〃（2）	〃（3）
第9週	〃（3）	〃（4）
第10週	〃（4）	〃（5）
第11週	〃（5）	論文コメントと修正（1）
第12週	追加的な研究計画（1）	〃（2）
第13週	〃（2）	〃（3）
第14週	〃（3）	〃（4）
第15週	〃（4）	〃（5）

4. テキスト・参考文献

適宜、紹介する。

5. 準備学習

日頃から、自らの興味・関心あるテーマについて問題意識を深めておくこと。
先行文献の収集・整理を行い、先行研究の成果や問題点をレビューしておくこと。
研究計画を具体化すること。
予備調査・予備実験のデータを分析しておくこと。

6. 成績評価方法

- ・論文本体（50点）
- ・発表会（50点）
- ・合計（100点）

7. 履修の条件

「経営情報研究演習Ⅰ」の単位取得者であり、指導の可否を担当教員から事前に承諾を受けた者に限る。

8. その他

特になし。

科目名	経営情報研究演習Ⅱ			担当教員：田邊 勝義	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Sciences II			メールアドレス：k.tanabe@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1202	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	2	研 307	月 3 限、木 3 限

1. 授業の概要

本演習では、経営情報研究演習Ⅰ（田邊ゼミ）に引き続き、各自の研究テーマの学術的必要性、研究背景、研究課題、研究計画に基づき実験を行い、データを収集・分析し、考察した研究成果を修士論文にまとめる。研究の進捗状況について適宜報告し、ディスカッションを通じて、より完成度の高い研究成果としてまとめることを目指す。

2. 到達目標

- ・論理的な研究報告書を作成することができること。
- ・同じ分野の研究者と専門性に基づいた研究テーマに関する議論を行う力を身に付けること。

3. 授業の計画と内容

前期		後期	
第 1 週	オリエンテーション	第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	これまでの研究成果の報告	第 2 週	研究成果の考察検討指導 (1)
第 3 週	研究計画の再設定指導 (1)	第 3 週	研究成果の考察検討指導 (2)
第 4 週	研究計画の再設定指導 (2)	第 4 週	修士論文概要作成・報告・指導
第 5 週	再実験プログラム作成・データ収集指導 (1)	第 5 週	修士論文作成・報告・指導 (1)
第 6 週	再実験プログラム作成・データ収集指導 (2)	第 6 週	修士論文作成・報告・指導 (2)
第 7 週	データ分析とまとめ指導 (1)	第 7 週	修士論文作成・報告・指導 (3)
第 8 週	データ分析とまとめ指導 (2)	第 8 週	修士論文のまとめ
第 9 週	研究進捗状況中間報告会	第 9 週	修士論文初版完成
第 10 週	研究成果指導 (1)	第 10 週	審査・報告会準備指導 (要旨作成)
第 11 週	研究成果指導 (2)	第 11 週	審査・報告会準備指導 (報告資料作成)
第 12 週	修士論文章立て検討指導	第 12 週	審査・報告会準備指導 (報告資料作成)
第 13 週	修士論文の構成指導	第 13 週	審査・報告会準備指導 (プレゼン資料作成)
第 14 週	追加研究データ収集の計画策定と収集指導	第 14 週	審査・報告会準備指導 (プレゼン練習)
第 15 週	研究成果発表会	第 15 週	修士論文審査・報告会

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

各自の研究テーマに合わせて指定する。

【参考文献】

各自の研究テーマに合わせて指定する。

5. 準備学習

研究の進捗状況をレジメに基づいて説明できるように準備すること。

6. 成績評価の方法

- ①ゼミの研究活動状況：20 点
- ②修士論文内容：60 点
- ③発表会：20 点

7. 履修の条件

原則として経営情報研究演習Ⅰ（田邊ゼミ）の単位取得者であること。
指導教員とのディスカッション、口頭発表の際にはレジメを用意し説明すること。

8. その他

研究成果を積極的に学会発表すること。

科目名	経営情報研究演習Ⅱ			担当教員：仲尾次 洋子	
科目名(英語)	Seminar in Management and Information Ⅱ			メールアドレス：y.nakaoji@meio-u.ac.jp	
				研究室電話番号：0980-51-1093	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
4	2	通年	若干名	研 302	火 2 限 ・ 木 2 限

1. 授業の概要

本演習では、研究演習Ⅰで学んだ理論的枠組みをベースに修士論文を作成する。

2. 到達目標

修士論文について、明確なストーリーラインと客観的な裏付けに基づく結論を見出すこと。

3. 講義予定

前学期		後学期	
第 1 週	オリエンテーション	第 1 週	論文再構成
第 2 週	論文の進捗確認	第 2 週	論文作成
第 3 週	論文作成	第 3 週	〃
第 4 週	〃	第 4 週	〃
第 5 週	〃	第 5 週	〃
第 6 週	〃	第 6 週	〃
第 7 週	〃	第 7 週	〃
第 8 週	〃	第 8 週	〃
第 9 週	〃	第 9 週	〃
第 10 週	〃	第 10 週	〃
第 11 週	〃	第 11 週	〃
第 12 週	〃	第 12 週	最終発表の準備
第 13 週	中間発表の準備	第 13 週	〃
第 14 週	〃	第 14 週	〃
第 15 週	前期の総括	第 15 週	総括

4. テキスト・参考文献

適宜指示する。

5. 準備学習

研究計画に沿って毎回報告できる準備を行うこと。

6. 成績評価の方法

活動状況 20点

研究成果 80点

7. 履修の条件

原則として、経営情報研究演習Ⅰからの継続である。

8. その他

特になし。

科目名	経営戦略特論			担当教員：林 優子	
科目名(英語)	Management Strategy			メールアドレス：y.hayashi@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1094	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	6	研 308	月 3 限、木 2 限

1. 授業の概要

この講義では、基本的な経営戦略に関する理論を体系的に理解することを目的として進めていく。企業を取り巻く環境は常に変化し続けているため、その中での採るべき戦略も変化・進化をしていると考えられる。そこで基本的な論点を踏まえながら、企業競争や企業革新を遂げていくための戦略とはどのようなものかを研究していく。

2. 到達目標

経営戦略論の理論的発展の経緯をはじめとして、企業事例を通して企業競争や革新的な展開について理解と分析ができる。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 オリエンテーション
- 第 2 週 経営戦略とは①
- 第 3 週 経営戦略とは②
- 第 4 週 競争戦略①
- 第 5 週 競争戦略②
- 第 6 週 事業システム戦略
- 第 7 週 ドメイン定義・次元
- 第 8 週 経営資源展開の戦略①
- 第 9 週 経営資源展開の戦略②
- 第 10 週 経営資源展開の戦略③
- 第 11 週 経営戦略と組織①
- 第 12 週 経営戦略と組織②
- 第 13 週 企業文化
- 第 14 週 知識創造①
- 第 15 週 知識創造②

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

オリエンテーション時に受講学生との相談によって決定する。そのため、講義予定が変更になることもある。

【参考文献】

石井淳蔵・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論（新版）』2002年（有斐閣）3,150円
M. E. ポーター著土岐坤・中辻萬治・小野寺武夫訳『競争優位の戦略』1985年（ダイヤモンド社）8,190円
など、ただし、必要に応じて紹介していく。

5. 準備学習

本講義は、基本的に受講学生によるプレゼンテーションを中心に行うため、与えられたテーマに沿って必要な情報収集や、事前準備は行うこと。

6. 成績評価の方法

- ・プレゼンテーション（レジュメ提出含む） 75点
- ・レポート 25点
- ・合計 100点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	比較経営学特論			担当教員：宮城 敏郎	
科目名(英語)	Comparative Management			メールアドレス：t.miyagi@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	2～3	研 204	月曜日 14：50～16：30

1. 授業の概要

経営学は企業の戦略・組織・行動を分析する際に、企業の経済的合理性すなわち企業の目的は利潤の追求であるという「資本の理論」を軸に分析してきた。たとえば、R.H.コースは「企業と市場」論において企業は取引費用を節約するために市場でなされていた取引を組織化したと述べた。また、O.E.ウイリアムは階層的組織の優位性が市場メカニズムより優れている点を挙げ、A.D.チャンドラーは近代大企業の成立と発展において内部組織が市場メカニズムより優越していることを歴史的分析によって明らかにした。しかし、比較制度分析の視点に立てば、アングロ・アメリカン・モデルが唯一無二の最適組織とは言えない。経済システムには多様性があり、歴史的経路と社会の制度体系に依存することは明らかである。

本講義では企業・市場（経済システム）・社会システムという総合的視点と比較経営学的視点に立ち、各国の企業組織について考察していく。

2. 到達目標

比較経営学を通して異なった国家や文化の中でビジネスが発展するにあたって、何が普遍的であり、何が特殊であるのかを考える力を養う。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 オリエンテーション
- 第 2 週 比較経営学の課題と方法 1
- 第 3 週 比較経営学の課題と方法 2
- 第 4 週 変化する制度レジームとビジネスシステム
- 第 5 週 アメリカ企業社会とステイクホルダー論
- 第 6 週 変貌するアメリカ企業と社会
- 第 7 週 中国の社会主義市場経済体制と国有企業の再編
- 第 8 週 EU 社会の変貌と企業
- 第 9 週 ロシアにおける企業社会の変貌
- 第 10 週 日本のコーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任
- 第 11 週 コーポレート・ガバナンスから見た企業と社会
- 第 12 週 社会的ネットワークから見た企業と社会
- 第 13 週 グローバル化における企業と社会
- 第 14 週 持続可能な発展と企業経営
- 第 15 週 現代企業社会の行方

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

日本比較経営学会編『会社と社会比較経営学のすすめ』文理閣、2006年 価格 3150円

【参考文献】

太田正孝『多国籍企業と異文化マネジメント』同文館出版、平成 20年 価格 3675円

5. 準備学習

経済学・経営学の基本概念を押さえておくこと。

6. 成績評価の方法

発表 (30点) + ディスカッション (30点) + 課題レポート (40点) = 100点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

特になし。

科目名	産業組織特論			担当教員：宮平 栄治	
科目名(英語)	Advanced Course of Industrial Organization			メールアドレス：s.miyahira@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	3	研 315	火・木 14:45～16:15

1. 講義内容

産業組織特論は、カルテルや独占企業などの競争市場の弊害の対策や理論化から誕生しています。そのため現実志向的で政策思考的な学問分野である。理論面では、ミクロ経済学、計量経済学やゲーム理論の知識を利用して産業組織や企業行動を分析する。

2. 到達目標

この講義では、何が産業組織を決定するのかを SCP パラダイムから学ぶ。何が、産業構造を変えるかについては、シカゴ学派、消費者行動やエージェンシー理論等から学ぶ。

3. 講義予定

- 第 1 週 なぜ産業組織が存在するのか
- 第 2 週 古典的産業組織論の成立と SCP パラダイム
- 第 3 週 SCP パラダイムへのシカゴ学派の批判
- 第 4 週 新産業組織論への発展
- 第 5 週 完全競争市場と不完全競争市場
- 第 6 週 消費者行動と産業組織
- 第 7 週 参入の経済効果
- 第 8 週 コンテストブル市場理論
- 第 9 週 取引コスト理論
- 第10週 エージェンシー理論
- 第11週 固体群生態学理論
- 第12週 制度化理論
- 第13週 コンティジェンシー理論
- 第14週 組織学習理論
- 第15週 レントシーキング

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、資料を配布する予定である。

【参考文献】

- (1) 長岡貞男・平尾由紀子著『産業組織の経済学—第2版—』、日本評論社、2013年
- (2) スマトラ・ゴジャール/D.エレナ・ウエストニー編著 江夏健一監訳「組織理論と多国籍企業」(文真堂 1998年)
- (3) 柳川範之著「契約と組織の経済学」(東洋経済新報社 2000年)
- (4) 佐々木広夫著「情報の経済学」(日本評論社 1991年)
- (5) ロナルド・H・コース著 宮沢健一/後藤晃/藤垣芳文訳「企業・市場・法」(東洋経済新報社 1992年)

5. 準備学習

上記の参考書の他、マイケル・ポーターの著作や経営戦略論の基本書を事前に読む。

6. 評価方法

- ①講義中における口頭発表およびディスカッション…50点
 - ②適宜行なうレポート…50点
 - 合計……………100点
- 以上の合計点で評価する。

7. 履修の条件

口頭発表の際は、レジュメを用意する。

8. その他

特になし。

科目名	小集団心理学特論			担当教員：金城 亮	
科目名(英語)	Psychology of Small Groups			メールアドレス：a.kinjo@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1203	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	6	研 314	火曜 4 限・木曜 2 限

1. 授業の概要

本特論では、集団、特に継続的な対面的相互作用のある「小集団」のダイナミックスに焦点をあてた議論を展開する。講義計画の前半では、小集団のグループ・ダイナミックス研究において、重要な諸変数を扱った研究事例をレビューする。後半はクラスで選定したテーマに沿って、実際の研究計画を策定し、データ収集ならびに統計分析を行なう演習を実施する。それらを通して、効果的な集団活動のあり方について検討する。

2. 到達目標

小集団心理学研究領域における基礎的研究事例を理解するとともに、そこで用いられた研究手法を活用・応用して実際の小集団過程に関するデータを収集し、分析・考察ができるようになる。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 オリエンテーション：小集団研究の意義と目的
- 第 2 週 小集団研究の方法
- 第 3 週 研究事例検討Ⅰ
- 第 4 週 研究事例検討Ⅱ
- 第 5 週 研究事例検討Ⅲ
- 第 6 週 研究事例検討Ⅳ
- 第 7 週 研究事例検討Ⅴ
- 第 8 週 課題演習Ⅰ：研究テーマの選定
- 第 9 週 課題演習Ⅱ：研究計画
- 第 10 週 課題演習Ⅲ：研究手続きの検討、実施準備
- 第 11 週 データ収集Ⅰ（実験／調査／観察）
- 第 12 週 データ収集Ⅱ（実験／調査／観察）
- 第 13 週 データ集計と統計分析
- 第 14 週 考察、研究報告書作成
- 第 15 週 研究報告書提出・ディスカッション

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

斎藤勇 編（1987）『対人社会心理学重要研究集 1－社会的勢力と集団組織の心理－』 誠信書房

【参考文献】

A. Zander 著 黒川正流・金川智恵・坂田桐子 訳 1996 『集団を活かす』 北大路書房
その他、適宜指定

5. 準備学習

初回講義において分担する研究事例について、テキストのみならず第一次資料や関連文献にもあたりつつ理解を深めて発表報告に臨むこと。

6. 成績評価の方法

- ①研究事例報告における分担発表：30点
- ②課題研究における活動状況：20点
- ③研究報告書：50点
- 計 100点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

- ・自主的・自立的な参加を求める。
- ・演習課題は講義時間以外の時間も利用してデータ収集、分析を行なうことになる。他の受講生と協力しながら共同研究を進めることのできる協調的な姿勢も要求される。

科目名	人的資源管理特論			担当教員：金城 亮	
科目名(英語)	Human Resource Management			メールアドレス：a.kinjo@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1203	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	6	研 314	火曜 4 限・木曜 2 限

1. 授業の概要

この講義科目では、人的資源をいかに管理するかというテーマに関して、人的資源管理論および組織行動論の見地から問題を発見・考察すると同時に、効果的な管理方法を学習する。さらに産業組織心理学の知見に基づき、ワーク・モチベーションや組織コミットメントなど被雇用者の観点からみた人的資源管理の課題を検討する。また、組織の情報化に伴って変化しつつある人事情報管理についても考察を深める。

2. 到達目標

多様化しつつある雇用・労働環境のもとで、効果的な人的資源管理を行うための方法論について考察し、実践上の課題について分析評価することができるようになる。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 オリエンテーション：人的資源管理の特徴
- 第 2 週 組織の論理①：人的資源管理の課題
- 第 3 週 組織の論理②：雇用制度と賃金制度の変化
- 第 4 週 組織の論理③：能力開発と教育訓練
- 第 5 週 組織の論理④：人的資源管理とジェンダー
- 第 6 週 組織の論理⑤：管理職者のリーダーシップとその効果
- 第 7 週 被雇用者の観点①：働くことの意味とキャリア発達
- 第 8 週 被雇用者の観点②：働くことへの動機づけ
- 第 9 週 被雇用者の観点③：組織コミットメント
- 第 10 週 被雇用者の観点④：新規就職者の組織適応と態度変容
- 第 11 週 被雇用者の観点⑤：サイバー就職コミュニティと就職活動
- 第 12 週 人的資源管理における情報化①：情報・知識共有
- 第 13 週 人的資源管理における情報化②：人事情報管理
- 第 14 週 ディスカッション：人的資源管理
- 第 15 週 まとめ・課題レポート

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜指定する。

【参考文献】

- 岩内亮一・梶原 豊 2004 現代の人的資源管理 学文社
- 山下洋史 2006 情報化時代の人的資源管理 東京経済情報出版
- 田尾雅夫 1999 組織の心理学〔新版〕 有斐閣ブックス

5. 準備学習

雇用する側と雇用される側の両方の視点から人的資源管理の問題を俯瞰し考察しつつ授業に参加すること。

6. 成績評価の方法

- ①講義参加・報告発表：30点
- ②課題レポート：70点
- 計 100点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

担当講師からの一方的な講義とならぬよう、課題研究の報告、ディスカッション等を交えながら進めていきたい。

科目名	経営活動情報特論			担当教員：田邊 勝義	
科目名(英語)	Advanced Lecture in Information Management Activities			メールアドレス：k.tanabe@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1202	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	6	研 307	木曜日 13:00 ~ 14:30 金曜日 13:00 ~ 14:30

1. 講義の概要

情報化社会における企業経営のかかえる課題と解決策を考察する。毎回ある課題をとりあげ、その課題に関する資料を講読してまとめを発表し、意見交換する形式および最近のトピックの中から選定した題材を調べ、発表し意見交換する。

2. 到達目標

情報化社会における経営活動の変化を絶えず推し進めてくる大きな力を感じ取り、それが動いていく方向を読み取る目を養う。伝統的な理論に対し疑問点を見つけ、自分なりの切り口や独自性を出した理論を考える姿勢を身につける。

3. 講義の計画と内容

- 第 1 週 オリエンテーション
- 第 2 週 情報経済社会
- 第 3 週 コンピュータの歴史
- 第 4 週 電子取引と B T O (Built to Order)
- 第 5 週 マルチメディアと生活
- 第 6 週 マルチメディアとビジネス
- 第 7 週 データベースマーケティング
- 第 8 週 ビジネスインテリジェント (データマイニング)
- 第 9 週 ネット広告
- 第 10 週 広告ターゲティング
- 第 11 週 R F I D (Radio Frequency Identification)
- 第 12 週 センサーネットワーク
- 第 13 週 クラウド・コンピューティング
- 第 14 週 ビジネスモデル特許
- 第 15 週 まとめ・課題レポート

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

ポーター博士の競争戦略の授業 かんき出版 (1600 円+税)

【参考文献】

適宜指示する。

図解「通販業界ハンドブック」、店舗システム協会、(1600 円+税)

5. 準備学習

事前に指示したテキストや資料について受講者で担当するページを分担し、担当部分についてよく読んで、レジメ or プレゼン資料を作成してくる。

6. 成績評価の方法

課題レポートと報告発表	60点
活動状況 (ディスカッション、参加積極性等)	40点
合計	100点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

授業は、事前に指示したテキスト、資料や最近のトピックの中から選定した題材について予め調べ、その内容を発表し、ディスカッションする形式をとる。

科目名	e-ビジネス特論			担当教員：田邊 勝義	
科目名(英語)	Advanced Lecture in e-Business			メールアドレス：k.tanabe@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	6	研 307	木曜日 13:00 ~ 14:30 金曜日 13:00 ~ 14:30

1. 講義の概要

インターネットをインフラとしたビジネスが一般化してきており、ビジネスの形態が変わってきた。本講義では、インターネットビジネスの基礎からオンライン・ビジネスへの参入方法、Webマーケティング、e-ビジネス、e-コマースの背景にあるテクノロジー等を学ぶと共に、インターネットにおけるビジネスモデルについて考察していく。

2. 到達目標

e-ビジネスの現状と課題を理解する。課題が起きている要因の分析、および解決案の検討を自ら出来るようにする。

3. 講義の計画と内容

- 第 1 週 オリエンテーション
- 第 2 週 インターネットビジネス入門
- 第 3 週 オンライン・ビジネスの準備
- 第 4 週 テクノロジー
- 第 5 週 訴訟問題
- 第 6 週 Webマーケティング戦略
- 第 7 週 検索エンジン
- 第 8 週 ショッピングとORM (Operation Resource Management) ソリューション
- 第 9 週 インタラクティブ・コミュニケーション
- 第10週 Webテクノロジー
- 第11週 セキュリティ
- 第12週 ネット上の画像・映像
- 第13週 ネットでの支払い
- 第14週 オープンソース
- 第15週 まとめ・課題レポート

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

よくわかる Web&モバイルマーケティングの教科書 マイナビ (2400 円+税)

【参考文献】

適宜指示する。

The e-Business Revolution (2nd Edition), Daniel Amor 著、

デジタル・アドバタイジング・コンソーシアム編、「ネット広告ハンドブック」、日本能率協会マネジメントセンター (1890 円+税)

5. 準備学習

事前に指示したテキストや資料について受講者で担当するページを分担し、担当部分についてよく読んで、レジメ or プレゼン資料を作成してくる。

6. 成績評価の方法

課題レポートと報告発表	60点
活動状況 (ディスカッション、参加積極性等)	40点
合計	100点

7. 履修の条件

特になし。

8. その他

授業は、事前に指示したテキスト、資料や最近のトピックの中から選定した題材について予め調べ、その内容を発表し、ディスカッションする形式をとる。

科目名	情報交流特論			担当教員：中里 収	
科目名(英語)	Information Interaction			メールアドレス：s.nakazato@mail.meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	3	研 312	火曜・木曜 3限 (13:00～14:30)

1. 授業の概要

本講では、人間同士の音声対話および人とコンピュータとの音声対話について研究する。前半は文献購読を中心に、対話に関する理論やコンピュータでデータを処理する方法を学習する。後半は、分析のテーマを設定し、実際に対話データを収集・分析してみる。

人が対話している場面で、音声情報や視覚情報がどのように利用されているかを研究する。

2. 到達目標

音声対話研究の基礎知識を身に付ける。

研究に必要な「文献検索」、「データ処理」、「プレゼンテーション技法」を身に付ける。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 オリエンテーション・研究計画
- 第 2 週 「話し言葉」と「書き言葉」の研究について
- 第 3 週 コンピュータと音声 1・音声の物理的特徴
- 第 4 週 コンピュータと音声 2・音素音節について
- 第 5 週 コンピュータと音声 3・音声認識システムのしくみ
- 第 6 週 コンピュータと音声 4・音声対話の特徴
- 第 7 週 コンピュータと音声 5・音声言語処理
- 第 8 週 文献研究
- 第 9 週 //
- 第 10 週 対話データの収集方法
- 第 11 週 //
- 第 12 週 対話データの処理方法
- 第 13 週 //
- 第 14 週 プレゼンテーション(成果発表)
- 第 15 週 //

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

講義の中で資料を配布する。

【参考文献】

- | | | | |
|------------|-------------|---------|----------|
| 海保博之 原田悦子 | 「プロトコル分析入門」 | 新曜社 | (2500 円) |
| 泉子・K・メイナード | 「会話分析」 | くろしお出版 | (4300 円) |
| 石崎雅人・伝康晴 | 「談話と対話」 | 東京大学出版会 | (3800 円) |

5. 準備学習

自分の修士論文のテーマを他人に説明できるようにしておくこと。

6. 成績評価の方法

レポート課題 (50 点) 発表内容 (50 点) で評価する。

7. 履修の条件

特になし (プログラミングと英語講読の経験があることが望ましい)。

8. その他

特になし。

科目名	情報知能特論			担当教員：アリ，ファテヘルアリム F. メールアドレス：ali@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1207	
科目名(英語)	Information Intelligence				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	4	研 313	火 10:40～12:10

1. 授業の概要

計算機による知識情報処理の基本的考え方，方法論，応用，更にその論文等の読みとまとめについて学ぶ。

2. 到達目標

計算知能の実用化と技術について学び，応用の事例に検討する。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 計算知能 (Computational Intelligence) とは
- 第 2 週 ソフトコンピューティング
- 第 3 週 ソフトコンピューティング
- 第 4 週 ニューラルネット
- 第 5 週 ニューラルネット
- 第 6 週 ニューラルネット
- 第 7 週 遺伝的アルゴリズム
- 第 8 週 遺伝的アルゴリズム
- 第 9 週 進化プログラミング
- 第 10 週 ファジイ推論とファジイ制御
- 第 11 週 ファジイ推論とファジイ制御
- 第 12 週 計算知能の実用化応用技術
- 第 13 週 計算知能の実用化応用技術
- 第 14 週 計算知能の実用化応用技術
- 第 15 週 計算知能の実用化論文のまとめ

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

- IT Text 人工知能、松本・宮原・永井(共著)、オーム社
- Amit Konar・Computational Intelligence: Principles, Techniques, and Applications (2005)

5. 準備学習

特になし。

6. 成績評価の方法

- 課題・学習態度 50点
- 期末レポート 50点
- 合計100点

7. 履修の条件

特になし。プログラミングと英語講読の経験があることが望ましい。

8. その他

特になし。

科目名	情報・通信技術特論			担当教員：アリ，ファテヘルアリム F. メールアドレス：ali@meio-u.ac.jp 研究室電話番号：0980-51-1207	
科目名(英語)	Information and Telecommunication Technology				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	4	研 313	火 10:40～12:10

1. 授業の概要

Theoretical and experimental design of telecommunication and data communication systems are discussed. Standards for systems and networks, and regulations governing various issues in telecommunication sectors are explained. Legal issues related to applications are also investigated.

2. 到達目標

計算知能の実用化と技術について学び，応用の事例に検討する

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 Introduction to data and communication systems
- 第 2 週 Standards and role of related organizations
- 第 3 週 Radio communication and spectrum
- 第 4 週 Broadcast Communications
- 第 5 週 Broadcast Co
- 第 6 週 Wireless Communications
- 第 7 週 Wireless Communications
- 第 8 週 Modern Data Communications
- 第 9 週 Modern Data Communications 2
- 第 10 週 Communication Industry Culture
- 第 11 週 Legal issues
- 第 12 週 ICT Industry and Market
- 第 13 週 Regulations in Telecommunication Sector
- 第 14 週 Regulations in Telecommunication Sector
- 第 15 週 ICT Assignment

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜指示する。

【参考文献】

1. Com Master Advance, NTT communicationsNTT 出版, 2013
2. Computer Networks (5th Edition) by Andrew S. Tanenbaum and David J. Wetherall (2010)
3. Data Communications and Networking , Behrouz Forouzan, McGraw-Hill (2012)

5. 準備学習

特になし。

6. 成績評価の方法

課題・学習態度	50点
期末レポート	50点
合計	100点

7. 履修の条件

特になし。英文講読の経験があることが望ましい。

8. その他

特になし。

科目名	会計学特論			担当教員：仲尾次 洋子	
科目名(英語)	Advanced Accounting			メールアドレス：y.nakaoji@meio-u.ac.jp	
				研究室電話番号：0980-51-1093	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	1～2	研 302	火曜日 2 限・木曜日 2 限

1. 講義内容

企業活動や投資活動のグローバル化に伴い、企業の業績を国際的に比較可能にするためのグローバルスタンダードとして IFRS (国際財務報告基準) の導入が必要とされている。本講義では、IFRS を念頭に置きながら、英文財務諸表の読み方について学び、財務諸表分析のケーススタディを行う。

2. 到達目標

グローバルな企業評価の基礎を習得する。

3. 授業計画と内容

- 第 1 週 インTRODクシヨン
- 第 2 週 Balance Sheet の読み方①
- 第 3 週 Balance Sheet の読み方②
- 第 4 週 Income Statement の読み方①
- 第 5 週 Income Statement の読み方②
- 第 6 週 Cash Flow Statement の読み方
- 第 7 週 収益性の分析
- 第 8 週 効率性の分析
- 第 9 週 安全性の分析
- 第 10 週 成長性の分析
- 第 11 週 総合力の分析
- 第 12 週 ケーススタディ①
- 第 13 週 ケーススタディ②
- 第 14 週 ケーススタディ③
- 第 15 週 まとめ

4. テキスト・参考文献

適宜指示する。

5. 準備学習

適宜テキストの要約や事例研究の紹介を指示するので、これに関する準備学習を行うこと。

6. 成績評価の方法

活動状況	50点
課題	50点
合計	100点

7. 履修の条件

簿記の基本的知識を有すること。

8. その他

特になし。

科目名	マーケティング特論			担当教員：平敷 徹男（非常勤講師）	
科目名(英語)	Marketing			メールアドレス： 研究室電話番号：	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	2～3	非常勤講師控室	講義終了後

1. 授業の概要

本講の主眼は、マーケティング概念の理解をもとに、ボーダーレスに展開されるマーケティング問題の考察にある。否応なく、国際競争に巻き込まれるグローバル化時代における各種組織のマーケティング問題を実践に即しつつ、理論的・体系的に学ぶ。また文化、経済、政治的環境等々国内マーケティングと違う複雑な環境下におけるマーケティングの展開を国・地域間の共生を視野に入れて考えてみたい。

2. 到達目標

マーケティング環境分析（SWOT, 3C分析等）、STP、4C等のマーケティング用語になじみ、マーケティング・コンセプトおよびマーケティング戦略体系を一通り把握し、国内・国外における戦略展開の相違を理解する。

3. 授業の計画と内容

- 第1週 オリエンテーション：マーケティング発想について
- 第2週 マーケティングの基礎（マーケティングとは？）：定義・基礎概念
- 第3週 マーケティング戦略
- 第4週 経営戦略との関係性
- 第5週 マーケティング環境
- 第6週 マーケティング機会の探索
- 第7週 市場と競争の分析
- 第8週 市場進出戦略
- 第9週 製品戦略
- 第10週 価格戦略
- 第11週 流通（チャンネル）戦略
- 第12週 プロモーション戦略
- 第13週 企業のグローバル展開とマーケティング
- 第14週 市場開拓とプロモーション戦略
- 第15週 マーケティングの将来展望

4. テキスト・参考文献

【テキスト】

講義開始時に決定する

【参考文献】

- 和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略（第4版）』有斐閣
- Fコトラー/Kケラー著恩蔵直人監修『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント（第12版）』ピアソン
- 大石芳裕・山口夕妃子編『グローバル・マーケティングの新展開』白桃書房（2013）。
- 諸上茂登・藤沢武史『グローバル・マーケティング』中央経済社。
- パンカジ・ゲマワット『コークの味は国ごとに違うべきか』文芸春秋。

5. 準備学習

国内外で事業展開している（例：ユニクロ、H&M）商品などを日常的に観察してもらいたい。（商品の品揃え、陳列、価格、情報伝達方法（店頭やメディアCM）等々）

6. 成績評価の方法

- ①講義での発表・質疑・討論への参加の程度（70点）
（大学院は発表とその後の質疑・討論で学びあう場であり、毎回の積極的な発言・参加は必須です。）
- ②小レポート（30点）

7. 履修の条件

経営関連科目の履修もしておくことが望ましい。（同時履修でも可）

8. その他

特になし。